With

ウィズセンター情報誌

2012 VOL.61

特集 働くということ

特集 働くということ

Ⅰ 若者と仕事

バブルの崩壊、就職氷河期、外資系企業の増加などグローバル化の流れの中で、インターネットでの就職活動が一般的になり、企業の選択肢が大幅に広がった今、自分の能力、適性、企業の内容も十分把握できないまま、膨大な会社情報の中から選択を迫られる学生たち。一方、ソーシャルビジネスへ目を向ける若者も増えてきました。今、若者を取り巻く「働く」ことについての環境を考えてみたいと思います。

岡山大学の坂入信也教授に、最近の大学生の就職状況について、お話を伺いました

新しい世界をノックして！

岡山大学キャリア開発センター
坂入信也教授

日本の就職活動では、企業は主に新卒学生を対象に採用を行い、学生が大学でどんな専門性を身につけたかということだけでなく、部活やボランティアなど勉強以外も含めて4年間何をしてきたかを重視します。日本には総合職という職掌があり、企業の中では色々な分野の仕事をすることになりますので、学生時代の専門性はそれ程重視されないのです。これはつまり、大学で何学部であったか、何を学んだかにかかわらず、すべての学生にどんな企業にも就職できるチャンスが与えられているということです。このチャンスは極端に言えば最終学歴の新卒のとき、一生に一度しかありません。だから、このチャンスを最大限に生かし、希望業種以外の分野にも、一歩足を踏み出すことで、自分のキャリアの可能性を拡げてほしいのです。大学生の就職は厳しいと言われていますが、全体的に22歳人口が減っているので、企業の側にも若い人を採用したいという希望は強くあります。学生には中小企業を含め、新しい世界をノックする勇気を持ってほしいと思います。

ノックした先に入れるかどうか、ふさわしい能力が自分にあるかどうか、それを学生自身が見極めるのは難しいでしょう。膨大な情報の中でその学生の立ち位置、適性などを見極めるためには、第三者による学生と企業・仕事とのマッチングが必要になると思います。その際、大学では教職員が学生と向き合い、一人一人を徹底的に分析することが必要であり、身近な先輩の就職先なども、学生にとっては重要な判断材料になります。

しかしながら、厳しい就職状況の中、就職活動の失敗は、あまり怒られたり否定されたりすることがない最近の若い人にとって、本当に辛い経験だと思います。追い詰められたときには誰かを頼ってみることも大切です。自分のこだわりを再確認して、自分をあまり責めず、大学やハローワークに相談して、一度自分を客観視してほしいと思います。そうすれば失敗した原因が意外に単純な問題だと分かったりするものです。

大学生の就職は一生に一度の大きなチャンス

女子学生について言えば、確かに女子は男子に比べて就職活動では不利な状況にあります。東京などの大手企業は女子も積極的に採用してくれますが、地方ではまだまだ総合職としての女子の採用は多くはありません。若い女性が担当者ということに、違和感を持つ顧客が多いという社会的風土が、まだ地方では根強いのだと思います。また、男女雇用機会均等法も、募集において男女差別をしてはいけないと規定しているので、企業は採用する予定がないのに女子も募集するなどして、かえって女子学生の負担になっていることもあります。均等法も入口の募集の段階ではなく、どれだけ女性を採用したかという結果を重視するものになればよいと思うのですが。それでも、都市部の外資系企業を中心に、労働力人口の減少の中で、女性を活用しようという流れは強くなってきています。

また、学生の親御さん方については、最近は一人っ子も多く、近くにいてもらいたいので地元に就職してほしい、さらに、安定しているから大企業がいいという方が多いようです。地元で大企業というと岡山では選択肢が非常に少なくなってしまいます。親御さん方にももっと視野を広げていただきたいと思います。

最後に、学生たちには大学生活という可能性ばかりの真っ白な４年間に、勉強でも勉強以外の活動でも何でもいいので、全力で取り組むことができる目標を見つけてほしいと思います。そのためには、まず動いてみることです。やりたいことが分からないから困っているんだという人も、自分自身の頭と体で体験することでしか答えを見つけ出すことはできません。動きながら考えることで見える景色が変わり、膨大な情報の溢れる世界で、自分の選択ができるようになっていくと思います。

地域や社会に貢献する新しい働き方について、若者のインターンシップ事業を展開されている藤井智晴さんに寄稿していただきました。

NPO
エリア･イノベーション
藤井智晴さん

社会貢献意識を持った若者が増加している。NPOや社会課題をビジネス的手法で解決するソーシャルビジネス（以下、SB）への就職や起業を選択する若者が増えてきた。以前はITベンチャーへ向かっていたような優秀な若者が、「ソーシャルベンチャー（社会的ベンチャー企業）」に向かっているとも言われる。

その代表格は、NPO法人フローレンスの駒崎代表（32歳）だろう。大学在籍中に、一度はITベンチャーを起業したが、留学時代の「日本社会の役に立ちたい」という想いと、あるとき、「子どもの熱で一週間会社を休んだら、クビになった」という女性の話を知り、病児保育の事業を起業した。今では、80名超のスタッフを抱えるNPOとなり、働きがいのある会社ランキング・中小企業（従業員250人以下）部門で第8位となるまでになった。

SBへ就職する事例もある。ここ岡山県には、実は全国的に注目されているソーシャルビジネスがあるのだ。西粟倉村の「株式会社 西粟倉・森の学校」である。村の96%を占める森林資源をはじめとした地域資源から製品をつくる事業を運営している。今年の4月には2名の新卒の若者が入社、カフェ事業の立ち上げを担当している。1人は大学在学中に、森の学校でインターンシップをし、「地域資源の循環的な利用を目指す取り組み」に共感したことがきっかけという。就活も一応したが、「違和感があり、やめた」という。皆が同じ格好、そして「最近の若者は…」と言われる若者が「新卒」というブランドになっていることが理由という。

また、SBというわけではないが、大学を卒業後、美作市の「地域おこし協力隊」の一員として働く若者もいる。地域おこし協力隊とは総務省の事業の一つで、中山間地の課題解決に取り組む事業である。大学在学中に、学校を作りに行ったネパールで感じた魅力と課題を、日本の中山間地域にも見出したこと、協力隊の先輩の「ここにフロンティアを創るぞ！」という思いに共鳴したことがきっかけという。

そして、大学を卒業後「回り道」をして就職する例もある。大学在籍時は就活をせず、卒業後に笠岡市にある地域の課題解決を行うNPOにインターンシップをし、この4月から職員として働く若者がいる。大学4年時は、家族のこともあり自分として就活を落ち着いてするタイミングではなかったという。卒業後出会ったインターンシップを通じて、「NPOの職員の方が地域の人たちのために、一生懸命仕事をしている」と体感、「この人たちのために、このNPOに貢献したい」と話す。

なぜ若者は「社会貢献」に向かうのだろうか。既存の仕事に「社会の役に立っている」という実感を持つことができない若者が増えてきているのではないか。「利益の最大化」と企業経営者の中から聞こえてくるが、若者には、「何のために、利益を上げる必要があるか」ということが伝わっていないように思える。若者を雇用する経営者は、今一度、「自社の価値提供を通じて、どんな社会にしていきたいのか」というビジョンを語る必要がある。「共感性」がキーワードだろう。

グローバル化をはじめとして、ますます変化が激しくなる社会になる。若者は、大学やサークルにとどまらず、地域や企業、NPOに飛び出し、社会の中で多様な関係性を築き、「変化対応力」をもった人材に育ってほしい。

若者の就職を支援します !!

ご存じですか

ハローワーク岡山では、平成24年4月から、44歳以下のフリーターなどで正規雇用を希望される方を対象とした、「わかもの就職支援コーナー」を開設しました。

- 担当者制で、マンツーマンでのカウンセリング
- 自己分析、模擬面接
- 「自分のいいトコ再発見セミナー！」 など

利用者の方からは、同じ目的を持った人同士で意見交換することで、自己PRや面接がうまくなった、というご意見も寄せられています。

求職活動に行き詰まってしまったり、どうしたらよいか分からないと思ったときには、ぜひご利用ください。

【所在地】　〒700-0971 岡山市北区野田1−1−20
TEL：086−241−3222
【ご利用時間】　平日 8：30〜17：15

特集 働くということ

Ⅱ 働き方を選ぶ

ライフステージに合わせて就労時間を選ぶことができたり、自分の好きなこと、やりたい仕事に就けることは男女が共にその個性や能力を発揮し、さまざまな生き方、働き方ができる社会をつくるための大切な要素です。会社の制度や自分の意思で「仕事」の場を選び、生き生きと働いている人たちを訪ねてみました。

ファイルNo.1 「好きを仕事に」 有限会社nap デザイナー 辻村優里さん

この会社で働きたいっ！

入社3年目の辻村さんは大学在学中に帰省先の広島でnapのカバンに出会い、ユーザーとして製品に興味を持ち、ホームページで求人情報を見つけました。もともとアパレル業界で仕事をしたいという希望を持っていましたが、会社見学に行き、「ここで働きたいっ！」という強い思いに至りました。なんと社長さん自らが会社のこと、製品のことなどを2～3時間も話をしてくれたというのです。

製品に魅せられ、社長の人柄に魅せられ、入社試験を受けました。ところが、当時、会社が求めていたのは技術職。辻村さんの希望はかないませんでした。でも、この会社にかかわっていたい！と思い、自ら手伝いに行くことに…。京都の大学から広島へ帰省する際には必ず岡山で途中下車して会社へ通いました。

その原動力となったのは「この会社で働きたい」という一途な想い。学校が休みのときや時間があるときには掃除や出荷作業などの手伝いを続けました。

そんな中、ある日社長から「東京で展示会をやることになったが、来てみないか？」と声をかけられたのです。辻村さんは自費で新幹線に乗り、駆けつけました。そんな想いが通じたのか、正社員として採用されることになりました。

「就職できるとは思っていなかったけど、かかわっていたかった」という辻村さん。晴れて好きな仕事に就くことができたのです。

やりたいことで認められたい

現在、吉備中央町の会社の寮で暮らしながら、レディースブランドの企画開発に取り組んでいます。自分のやりたいブランドを大きくして、売上を伸ばし、「仕事」を認めてもらい、任せてもらえるようになる、というのが今のところの目標です。

とにかく、良いものを作って売りたい。好きなところで、好きな人たちと仕事を始めて3年目。「もっと頑張らなければ」と大きな目は将来を見つめています。

社長から“ひとこと”

応募してくるのは26～27才の再就職を目指す人たちで、「生き方を変えたい」と思っている人が多い。すべての人に驚いてもらい、楽しんでもらい、喜んでもらうというのが会社のスタンス。それは社員に対しても同じです。言ったことが形になって実現していくことは面白い。何かをするためにはまずリスクを張れるということも必要だと思います。

ファイルNo.2 「働き続ける」 有限会社ライトアーム 蟹江久美子さん

時間を上手に使って・・・

蟹江さんが現在の会社で働き始めたのは、二人目の出産を終えた一ヶ月後のことでした。職種が子育ての合間でもできる入力事務だったこともあり、仕事を続けることは自分自身のスキルの維持にもつながると考えました。会社の配慮で最初は在宅での勤務、慣らし保育の間は午前中の勤務と、子どもの成長に合わせて勤務時間を増やしてきました。「子どもが急に熱を出したり、病気になったりした時は休みを取らせてもらいました。社内では時間に融通が付くようお互いにカバーし合っています」。

家事と仕事の両立は大変では？と聞くと「働いているからこそできることがあると思うんです。時間の使い方さえ工夫すれば何でもできます。それは自分の意識。例えば通勤の車の中で家事の段取りを考えます。好きなことに時間を使って、リフレッシュするためにも時間は有効に使いたいです」。

働く主婦にとっては夫の協力も大切です。学童保育のミーティング、家庭訪問、懇談など子どもの行事には積極的に参加してくれる夫は蟹江さんの心強い味方です。何よりも働いている蟹江さんのことを理解してくれているということが嬉しいそうです。

会社ではマネージャーという立場の蟹江さん。自らを「語り好き」だといい、スタッフが話を聞いてくれるのは嬉しいといいます。でも、役職があるからこそ、語ってはいけないとも。役職があっても無くても、みんなと一緒に仕事をやりたいと思っているそうです。

『働く』ことがライフワーク

蟹江さんにとって「働く」ということは収入を得る手段というだけではなく、それ自体がいわば『ライフワーク』。「家の中で子どもと接しているだけでは、私は視野が狭くなってしまう。自分のものさしが小さくなってしまわないように、外が見たいとも思うし、いろんな意見を聞きたいとも思います。いろんな人とかかわって、刺激があるのが『仕事』。仕事は人間関係の勉強の場です。自分自身、一本芯が通った人間になって、人を育ててみたいとも思います」。

今、業務のスリム化、質の向上を目指して改善の仕事にも携わっているそうです。お客様に喜んでもらえて、求められる以上のものにチャレンジし、信頼と信用を得ることができるように丁寧な仕事をしたい、と意欲的に語っていただきました。

ファイルNo.3 「心に寄り添う」 岡山男性介護者の会　江川敏雄さん

介護家族への支援を

もともと福祉施設の職員だった江川さんが男性介護者の会の活動を始めることになったきっかけは、京都で起きた介護殺人だったとのこと。18年間、生活保護も受けられず、母親に床擦れをつくることなく完璧な介護をしたにもかかわらず、ついには自らの手で母親を死に至らしめたという悲惨な事件でした。

介護保険はあるものの、いざとなったとき、男性特有の性質などが壁となってしまう。介護保険は当事者利用のみで、家族に対する支援はありません。「相談できる人にもう少し早く出会っていたら」という声を聞き、家族への支援活動を始めたのです。

とにかく目の前にいる人の助けになろう、心に寄り添おうと続けてきた活動を今年、会の事務局長の川畑広美さんがヘルパーステーションを立ち上げるという形で当事者、家族両方へと広げていくことになりました。

力強く介護にかかわって！

課題はたくさんあります。介護のための離職者は全国で約14万人いると言われ、母親の年金で暮らしているけれど、賭け事などに使ってしまったりするケースも。依然として雇用状況は改善されず、特に障害を持つ介護者は、雇用も厳しい状況に置かれています。

江川さんいわく、「介護をしながら働くことは至難の技。介護休業はほとんど取られていない状況だし、親の介護が必要になったとき、兄弟間で誰が仕事を辞めやすいかということが話し合われたりする。いったん仕事を中断すると、一般企業への復帰は難しい」。

最初は男性介護者への支援を頭に入れていましたが、今はすべての介護家族への支援を始めているそうです。「従来は女性が担ってきた介護ですが、男性にも弱音を吐いてもいいから、力強く介護にかかわってほしい」と江川さんは言います。

介護家族への支援から、今は人権問題として当事者や家族にかかわるようになり、ヘルパーステーションでは障害者へも雇用の場を広げる活動に取り組んでいます。近年、「介護うつ」も急増しており、毎年行われる全国医療研究会ではいかにモチベーションを高めながら働くことができるか、障害を持ちながら働くことの意義などを話し合い、介護従事者への支援も視野に入れた活動を考えています。

将来、実現させたいことは誰もが孤独ではなく、生きていて良かったと思える最期を迎えられる、看取りのできる居場所の確保です。「地域の支えなくしては介護は崩壊してしまう。一人一人の出会いを大切にして、心に寄り添うことができれば、何かができるはず」と穏やかな中にも力強く語ってくださいました。

取材を終えて

「働くということ」のテーマで訪れた取材先は若者、中堅、中高年世代というそれぞれのライフステージで『仕事』に向き合っている人たちでした。様々な選択肢がある現在、「働く」形態はいろいろあるはず。自分自身に合った仕事を選んで自己実現ができる、そんな社会が垣間見えたような気がしました。

（情報コーナー：小林鈴代）

仕事と子育ての両立を応援します !!

ご存じですか

ハローワーク岡山マザーズコーナーは子育てをしながら就職を考えている方に対して、総合的かつきめ細やかに就職支援をするハローワークです。

幅の広い相談ブースではベビーチェアを完備しており、キッズコーナーや授乳室もあるので、お子様連れの就職活動も安心です。

【ご利用時間】
平　日：　8：30～17：00
土曜日：10：00～17：00（当分の間は第1・3土曜日のみ開庁）
休　日：日曜日、祝日（祝日の土曜日を含みます）、年末年始

【所在地】
〒700−0901 岡山市北区本町6−36 第一セントラルビル7階
（ハローワークプラザ岡山内）
TEL：086−222−2905

ウィズカレッジ・企画講座

2012年3月9日(金)

岡山発の人気ブランドで海外進出を果たしたクロスカンパニーの石川康晴さんは、内閣府男女共同参画推進連絡会議の議員も務め、女性が活躍しやすい職場環境作りに取り組まれています。エネルギッシュで魅力的なお話に、満員の聴衆は引き込まれました。

講演 「新しい日本を創る働き方」

講師 石川康晴さん（株式会社クロスカンパニー代表取締役社長）

強い日本を創るために

企業の役員会における女性比率を見ると、ノルウェーは41%、欧米の平均が11%に対し、日本は1.23%と大きく遅れています。日本では、女性が働くと子どもが少なくなると言われていますが、データで見ると、欧米諸国では、女性労働力率が高くなるほど出生率が高くなる傾向にあります。国の制度だけではなく、民間企業で女性が働きやすい環境がないことが問題なのです。女性の就業希望者342万人に就業機会が与えられたら、労働力人口は5.2%上昇し、GDPは1.5%増加するという内閣府の試算がありますが、女性の労働を阻害する要因を無くすとGDPは16%増加するという発表もあり、強い日本を創るためには、女性が働きやすい組織環境をつくることが大事だと思います。

支援制度は社員のニーズに添って

アパレル業界の先輩からは、人材は調整弁と言われましたが、全員正社員という経営戦略で、販売員のモチベーションが高く維持できています。

また、当社は仕事と家庭の両立ができる企業を目指し、社員の声に耳を傾け、社員のニーズから職場環境を変えようと考え、様々な支援制度を取り入れています。

「販売職でも18時には帰宅して家事がしたい」「延長保育はしたくない」とのニーズから、1日6時間の短時間勤務制度を創り、販売職の既婚者のための日曜特別休暇も整備しました。「子どもが小さい間は大変だ」「生活費が厳しい」との声に、10歳未満の子どもへの育児手当と子ども行事特別休暇も設けました。

女性が公私ともに充実して働けるために

4時間勤務正社員制度は、当社が日本で初めて導入したもので、短時間勤務なら、世帯主の扶養範囲での非正規が一般的で、そもそも需要がないのではとの意見が社内役員会議でもありましたが、多くの応募があり、「家庭と仕事の両立ができる」「経験が生かされ充実している」と好評です。当社は店舗販売員の平均年齢が24.5歳と若く、経験者の受け入れは若手の勉強にもなり、お子様連れの接客が向上し、主婦層の顧客も増えました。日本では、正社員は8時間労働が普通なので、当社のユニークな制度として今後も取り組みたいと考えてます。

また、企業の成長の局面で、大手企業からの男性の中間管理職中途入社が増え、女性管理職の構成率が低下したことなどから、組織横断的に女性を評価する「女性人事委員会」を設置しました。女性が男性化してはならないとの概念のもと、女性が公私ともに充実して働ける社内環境を整備することで、女性管理職の構成比率が増加し、また、社内改革にも通じています。

女性の意見を大切に、さまざまな意見に耳を傾けて

女性の雇用創出なしに日本は元気にならないし、経済も回って行かないと思ってます。男性主義では一方的な意見になるので、会社が傾いてしまいます。女性の意見を無視してはいけないというのが、日本の社会において一番大事なことです。グローバルにおいては、人種、性別、宗教にかかわらず全ての人の意見を聞くこと、聞く耳を持つことが大切です。それが、雇用の創出、経済の発展、財政の緩やかな回復に繋がり、もちろん生産性も向上します。

ウィズカレッジ・企画講座

2012年5月18日(金)

～介護保険と人間関係のベストマッチング～

おばあさまの介護と、学生時代に病院の看護助手を務めた経験から、「老い衰えゆくこと」の研究を始められた立命館大学の天田城介先生。身近にある「老い」を見つめ直すお話に、会場の皆さんは熱心に聴き入りました。

講演 「家族のなかで老いるということ」

講師 天田城介さん（立命館大学大学院先端総合学術研究科准教授）

自己否定の感情を強めるループ

老いというものを心理面から見ると、認知症の高齢者は「昔できたことができなくなってしまった」という強烈な不安、「自己否定の感情」の中で生きています。認知症の特徴の一つに「物盗られ妄想」というものがあり、犯人にされるのはたいてい嫁です。認知症の高齢者は「最近物忘れがひどくなった」という不安から財布をしまい込み、しまい込んだことを忘れて大騒ぎをして、家族に怒られます。それを繰り返すことで、自己否定の感情は強まっていきます。このような、“悪循環のループ”の中、頼らざるをえない嫁を拒否したいという感情が、嫁に対する攻撃性になっているのです。

大騒ぎされた上に犯人にされた嫁は、次に同じことをされると、「私は知りません。お父さんに探してもらいましょう」などと、割り切った冷たい態度をとるようになります。そうやって、感情の爆発を押さえているのです。私の祖母を介護していた母もそうでしたし、学生時代にアルバイトをしていた医療の現場にも似たような状況がありました。

心の「ホーム」をつくる

私の祖母の場合、ホームヘルパーを頼み、家の中をオープンにすることで、かなり状況が改善しました。家族の「自己否定の感情」を家族が取り除くことは難しいので、デイサービス、ショートステイ、ヘルパーなど、認知症の高齢者にとって心の安定できる「ホーム」をつくってあげること、家族の中で主たる介護者以外の人、例えば孫などに対する役割を与えてあげることが大切です。そうすることで、認知症の高齢者は「物忘れがひどくなってもよいのだ」と思えるようになり、心の安定を取り戻していきます。こうして、家族は抜き差しならない関係に陥ることから逃れられるのです。

皆さんも、年をとっても自宅で暮らしたいと思われるなら、デイサービスは不可欠ですから、近くに安心して通えるところを見つけておくことをお勧めします。

緩やかな人間関係をつくる

そして大事なのは、介護は保険で自己調達できますが、人間関係はお金では買えないということです。若いうちから友人や趣味の仲間など、家族以外の人間関係を作っておくのがよいでしょう。

さらに、一人の時間を楽しめる環境をつくることも大切です。70歳から始めても90歳までには20年ありますから、趣味の世界でプロ級になることもできます。一人の時間を楽しく過ごし、その趣味を通じて緩やかな人間関係をつくる、それと介護サービスとのベストマッチングな生き方を見つけることが、豊かに老いるために必要だと思います。

男女共同参画ゼミナール　公開講座　2012年7月13日(金)

今春まで11歳の娘とともにアメリカに滞在。「笑って考える少子高齢社会」のタイトルで47都道府県を講演して回っている瀬地山さん。関西弁の爆笑トークで、「男の子育て」や「少子高齢化」について、軽快に語っていただきました。

講演　「思春期の娘と2人で暮らせば
～笑って考えよう！家族・仕事・未来～」

講師　瀬地山 角さん（東京大学　大学院総合文化研究科　教授）

ちょっと変わった家族です

我が家は、パートナーと子ども2人(現在、小学生)の4人家族で、日本人が3人、韓国人が3人、アメリカ人が1人…？　種を明かすと、生まれも育ちも日本の在日韓国人のパートナーと…多重国籍の子どもが2人。パートナーと子育てをシェアにする毎日を送っています。

男の子育て

保育園の送迎といえば、最近は父母交替で、というのも珍しくありませんが、うちはほぼ100%が私でした。現在も私の方がパートナーより早く帰宅するため、必然的に「夕飯担当」となり、できた頃にパートナーが帰宅する、といった生活パターンです。

私は自称「口から出稼ぎ」で、全国を子連れで講演に回ったりしていました。そのため、子どもとの時間をたっぷり作ることができました。たまにはお母さんが外出、できれば泊まりがけで長時間子どもとお父さんが過ごす時間を作るとコミュニケーションが十分に図れます。中途半端に短い外出だと逆効果になります。子どもの「ママがいい!」に負けないで!

思春期の娘とアメリカで2人暮らし

昨年3月、東京大学から1年間研修の時間をもらい、サンフランシスコ郊外のカリフォルニア大学バークレー校で客員研究員をさせてもらうことになりました。小学5年生だった上の子にとっては英語を身につけるチャンスです。私自身も小学5年生の頃に8カ月間アメリカに行き、その後、英語がとても役に立った経験から、この1年は娘にとって一生の財産となるだろう、と思いました。下の子は、小学1年生だったので、最初の3カ月は、パートナーが会社の休みを取り、家族4人でアメリカで暮らしました。パートナーと下の子が帰国したあとは、娘とアメリカでの2人暮らしが始まり、シングルファーザー状態となりました。

私は、娘の送迎と食事づくりに追われる日々。娘は、宿題の山と格闘する毎日。私の宿題の教え方は最悪。一生懸命作った料理も、娘にとっては、あまりおいしくなかったようで、結局、安定して合格点だったのは、オムライス、ハンバーグ、お好み焼きぐらいでした。思春期の悩みも「パパには相談しにくかった」ようで、週末に母親に電話で相談したり、彼女が年末年始の休暇中に、下着や生理用品を用意したようです。思春期の娘の悩みを聞くことや、髪の三つ編みなども、父親には難しい作業でした。

男の子育てが少子高齢化を乗り越えるカギ!?

出産と、子育ては違います。「出産」は女性にしかできませんが、「子育て」なら男性にもできます。少子高齢社会を乗り越えるためにも、自分の体験を生かし、日々の生活の中で研究し、こういった生き方を、当たり前にできるようにしていきたいと思います。

現在、65歳以上を高齢者としています。私は今年49歳ですが、自分たちは70歳まで年金はもらえないかもしれません。辛口ですが「60代には年金を出すのをやめよう!」と提案したいと思います。これからは、高齢者も働く社会を考えていくべきです。統計によると、高齢者の労働力率が高い都道府県ほど、老人一人当たりの医療費は低いのです。さらに、高齢社会の到来に向けて「消費税アップ」は不可避です。

2頭立て馬車で新しい社会の構築を!

少子化対策は、まず「仕事と育児の両立支援」という観点からスタートしましたが、この言葉は「子育ては女性がするもの、女性が仕事と子育てを両立できるようにしよう」と言っているように感じられるので、私はあまり好きではありません。子育ては、女性だけの問題ではないのです。根本的に男性の働き方を見直さない限り、普通に働き、普通に子育てをする社会は実現しません。そのためには、男性の育児休業が必要となります。長時間労働を無くして、「夫の育休」「夫の産休」を忌引きと同程度にとれる社会にしていくことが必要になります。

社会生活基本調査による家事時間は、有業男性平日平均20分、週平均31分に対して、有業女性平日平均171分、週平均181分とはあまりにも有業女性の方が家事に費やす時間が多く、しかも男性の家事時間といえば日曜大工なども含まれます。男性の著しく短い家事時間はもはや「社会的に」問題にすべき水準だと思います。

「男は仕事、女は家庭」という1頭立て馬車の考え方を、男性の働き方も含めて見直さなければなりません。男性が夜中まで働くことが「少子化」を生み出したとも言えます。これからは、馬車は2頭立てに!

「子育て支援」から始まり、機会均等から両立へ、女性問題から男女の問題へ、みんなで「仕事を分け合いながら」男と女で新しい社会を構築しましょう。

男女共同参画ゼミナール　公開講座　2012年7月13日(金)

世界の貧困問題を解決しようと、フェアトレードによるエシカルジュエリーの制作・販売を手がける白木さん。27歳でHASUNA を立ち上げるまでの行動力に参加者は興味深く耳を傾けました。

講演　「フェアトレードで起業
～エシカルジュエリー HASUNA の事例～」

講師　白木夏子さん（㈱HASUNA 代表取締役）

今、発展途上国では森林破壊や児童労働、紛争や貧困などさまざまな問題が起きています。そんな諸問題を解決できるようなジュエリーを作りたいと、2009年4月にHASUNAを立ち上げました。

国際協力へのめざめ

母親がファッションデザイナーだったので、物心ついた時から身の回りにはミシンや布がありました。物を作るのが大好きだった私は将来は日本を出たいとも思っていましたので、英語を勉強するために地元の短大へ進学しました。そこで、世界100ヵ国以上を訪れたというフォトジャーナリストの桃井和馬さんの講演を聞く機会を得たのです。

環境破壊、飢餓、貧困など想像以上に危機的な状況を身近に聞き、「自分は今まで何をしていたのだろう？迷っている時間は無駄だ。国際協力をやるしかない」と思い、すぐさまフィリピンを訪れました。スモーキーマウンテンでゴミを拾って生活している子どもを見て、今、この瞬間、世界中でこんな子どもたちが確かに存在するのだと思いました。約一週間の滞在で得たものは「貧困問題をもっと理解したい！」という思いでした。

20歳のときロンドン大学へ留学し、「国際開発学」を専攻しました。最貧困層の現場を見て、もっと考えたいと思い、21歳のときインドに滞在。貧困層の村を30ヵ所回りました。

衝撃を受けたのは鉱山で働く人たちの現状を見たときでした。人々は過酷な労働を強いられ、村は重苦しい雰囲気、何一つ希望が見えない状況の中で、子どもたちから笑顔は消えていました。どうすることもできない貧困を目の当たりにし、やるせない気持ちでいっぱいになりました。

日本人として自分に何ができるだろう？という思いを胸に、24歳のときベトナムのハノイで6カ月間国連人口基金でのインターンを経験し、どうすれば貧困がなくなるか考えました。優秀なスタッフが取り組んでいるにもかかわらずなぜ貧困がなくならないのか？果たして「援助」で貧困はなくなるのだろうか？複雑に絡み合った問題だからこそ、もっと多くの人たちを巻き込む必要があるのではないか？人は何に動かされているのだろうと考えたとき「お金」「ビジネス」にたどり着いたのです。富の80％を20％の人が牛耳っている。大半の人はお金で動かされる。多くの人から貧困層に適切なお金が流れるビジネスができれば世界は変わる！と確信しました。

HASUNAの使命

25歳のとき、東京で投資ファンドの会社に就職し、経営を学びました。週7日、24時間という臨戦体制での仕事もリーマンショック以降、陰りが見えはじめ、貧困層に適切なお金が流れるビジネスをやりたいと考え続けた結果ジュエリーの制作・販売を思いついたのです。南アフリカ、中南米など世界中の鉱山労働者2000万人のうち15歳以下は100万人と言われます。「悲劇」ではなく「輝く人」をつくるジュエリーをつくろう！まだ日本で取り組んでいる人はなく、それに気付いたことは運命だと思いました。

26歳で起業の準備をして、27歳でHASUNAを設立しました。会社のミッションは途上国生産者からジュエリーを身につける人まですべての人が笑顔で輝く社会の実現です。素材の調達は生産者から直接仕入れるというフェアトレードの形をとっています。鉱山労働者の人権を守り、生産の段階を可視化することは重要です。ミクロネシアの南洋真珠プロジェクトでは、働く場所が無いので都会に出ていく、すると島は過疎になるという悪循環を断ち切るために、島に真珠の養殖場を作り買い付けすることにより、現場での雇用を創出することができました。雇用、社会、自然環境に関する、マイナスの影響に対しプラスのアクションができるよう、調査研究活動もしています。世界中の職人やアーティスト、宝石の生産者たちが笑顔でいられる環境づくりや、自然環境に配慮した工程を取り入れること、そのすべてを含めてジュエリーデザインだと考えています。児童労働や搾取をなくし、世界と一緒に輝いていける会社を目指したいと思っています。

いざというとき役に立つ「女性のための護身術!!」
～自分の身（カラダ）は自分で守ろう～

現役警察官をお招きし、県内の女性が被害を受けた事例から注意すべきことや、通報するときに犯人の特徴を伝えるポイントなどを学びました。また、後半は、参加者同士ペアになり、護身術の講習を受けました。

被害にあうのは、いつ?どこで?

女性や子どもを対象にした不審者情報の85％が犯罪の前兆行為です。被害者の約65％を10～20代の女性が占め、時間帯は約45％が20:00～24:00に発生しています。場所は路上や駐車場など人気のない屋外が多く、約90%が1人で行動中に、被害にあっています。

犯罪から身を守るために

「自分の身は自分で守る！」という意識を持つことが大切！狙われやすいのは1人でコンビニへ買い物に行くなど単独行動の場合です。住居ポストの表札や、カーテンの色などから女性の一人暮らしだと判断されてしまうこともあります。また、携帯電話で通話やメールをしながら歩く、イヤホンをしたまま歩くなどせず、背後から近づく人に警戒することが必要です。犯人は、人目の多い場所を警戒するので、大通りや人の多い場所を歩くように心掛けましょう。

犯人の手口としては、「背後から抱きつく、口をふさぐ、はがいじめにする」、「密室になるエレベーターの中を犯行場所に選ぶ」「点検や宅配を装って家に入ってくる」「警察官を名乗る」などがあります。

また、出会い系サイトは現実と違う人になれるという心理から、軽い気持ちで利用しがちですが犯罪の温床にもなります。個人情報を悪意を持った人に知らせないこと、基本としてアクセスしない、個人情報は伝えない、応じないという意識を持つことが大切です。

自分を守る“護身術”

ここで学ぶ護身術は、相手を倒すのではなく『逃げるための手段・技』として身につけてほしいものです。護身術を身につけても強くなるわけではありません!!

【身を守るための原則】
★危険と思われる場所に行かない。★物品に対する執着心を捨てる。
★他の協力を求める。★臆病になる。

手をつかまれたら

①つかまれた方の手の指を開く（相手の力が緩みます）

②開いた手に、下から反対の手を組み合わせ、つかまれた側のひじを相手のひじに近づけて

③組んだ両手を引き抜く。

後ろから抱きつかれたら

①体を左右どちらかにずらす。

②手を上に上げて

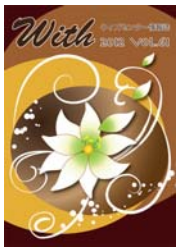
③振り下ろして急所を狙う

迷わず110 番通報！

不審者を見たり、ちょっとでも身に危険を感じるようなことがあれば、すぐに110番通報をしてください。110番通報→通信指令課→管轄の警察署に繋がるシステムとなっています。性犯罪の届け出はためらう人が多いですが、同じ被害にあう人を増やさないためにも勇気を出して早めの相談を。通報情報をもとに捜査を行うので、自分の覚えているわずかな情報でも、何人かが覚えている情報と組み合わせると犯人に結び付くこともあるのです。

岡山県警察「ももくん安心メール」のご案内

岡山県警察では、地域ぐるみによる子ども・女性安全対策にお役立ていただくため、携帯電話への「不審者情報」のメール配信を行っています。登録の方法は、お手持ちの携帯電話からmomo@psmail.jpあてに空メールを送信すると、自動で返信があるので手順に従って登録できます。安全、安心のためぜひご登録ください。



今号の表紙

デザイン：蔡（さい）　美伶（みれい）さん（岡山商科大学専門学校　ITビジネスデザイン学科）

（作品のコンセプト）

ジャスミンティーの語源は、アラビア語の「ヤースミーン」。それが転じて「ジャスミン」となりました。休み時間、ジャスミンティーを飲んで癒されて、また頑張れるというイメージで描きました。

ウィズライブラリー ～新着図書より～

『災害復興―東日本大震災後の日本社会の在り方を問う ―女性こそ主役に!』

・日本弁護士連合会 編
・日本加除出版
（2012年）

避難所で、仮設住宅で、マスメディアが報道しなかった被災女性の現状から、なぜ「災害時の女性支援」が必要なのか明らかにする。

『三匹のおっさん ふたたび』

・有川浩
・文藝春秋
（2012年）

かつての悪ガキが還暦を迎え、地域の諸問題を解決していく。人情あふれる展開に性別や世代を超えて楽しめる社会派小説。

『きみはいい子』

・中脇初枝 著
・ポプラ社
（2012年）

「虐待」がテーマの短篇集。給食をおかわりする痩せっぽちの少年。幼い娘を殴らずにはいられない母親。目をそらしてはいけないというメッセージが伝わってくる本。

映画のつどい

9月～1月の上映予定

◇9月27日（木）
「アイ・ラヴ・フレンズ」

◇10月25日（木）
「折り梅」

◇12月13日（木）
「黄金花」

◇1月24日（木）
「石井のおとうさんありがとう」

「映画のつどい」はお申し込みなしでご参加いただけます。
当日の開始時刻（いずれも13時30分から）までに、ウィズセンター会議室へお越しください。
ご参加をお待ちしています。

※やむを得ず上映作品が変更になることがありますので、ご了承ください。

活動団体紹介コーナー

県内で男女共同参画推進活動を活発に行なっている団体・グループを紹介するコーナーです。
今回は「社団法人大学女性協会岡山支部」です。

女性の教育の向上と男女共同参画の推進、国際理解と親善に尽くすことを目的に、国際大学女性連盟（IFUW）の加盟団体として活動をしている日本の大学女性協会の岡山支部です。全国に26支部あります。岡山支部には62名の会員がいます。

活動内容は勉強会や講演会開催、同好会活動のほかに、「外国人による日本語弁論大会」を主催しています。今年第29回を迎え、11月11日(日)午後1時から岡山県国際交流センターにて開催します。

メンバーは20代から80代まで、「すべての輝く女性の明日のために」、すべての人が幸せと感じる社会になるように、何かしたいという熱い心を持った素敵なメンバーです。

五つある同好会活動の中の「英語を読む会」では毎月出る国際大学女性連盟（IFUW）のニュース（英語版）を読んでいます。会合にはウィズセンターの「交流サロン」をよく利用させていただきますが、静かで明るく、広々としていて気持ちよく、居心地がよいので、快適に利用させていただいています。事前に予約できる上に、無料なので助かります。

南アフリカ連邦出身のテンビ・ンデララーネ博士（岡山大学大学院教育学研究科教授）のお話を聞くときも利用させていただきました。

テンビ・ンデララーネ博士と

ウィズセンターにひとこと

いつも気持ちよく接して下さってありがとうございます。他のグループと重なったときも、場所等配慮してくださって助かっています。

インフォメーション

ウィズフェスティバル2012

男女共同参画社会の実現に向けて、県民の積極的な参加と団体の自主的な活動及び交流を促進するため、女性はもちろんのこと、男性や若年層など幅広い県民が参加できるフェスティバルを開催します。

開催日：11月16日（金）～17日（土）　　会場：きらめきプラザ

17日（土）

■記念講演 14:00～15:30

演題「断捨離～私らしい生き方のすすめ」（仮題）
講師 川畑 のぶこ
（心理療法家／ダンシャリアン（断捨離実践者））

16日（金）

■登録団体企画

ウィズセンター会議室及び7階会議室では講演会やワークショップ、バザーなど登録団体の企画事業を行いますのでご参加ください。

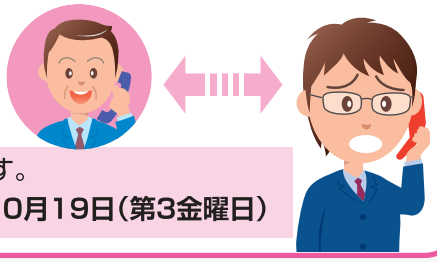
■同時開催 パネル展示 11月1日（木）～30日（金）

ウィズセンターで登録団体のパネル展示を行っています。

「男性のための悩み相談」の相談日の変更について

岡山県では、男性相談員による男性のための電話相談を行っています。

男性相談専用電話番号（086）221－1270（いつもなやみゼロ）



10月の相談日を都合により次のとおり変更させていただきます。

変更前　平成24年10月12日（第2金曜日）➡　変更後　**平成24年10月19日（第3金曜日）**

With

*ウィズセンターは**土・日曜日**も**開館**しています。*
お気軽に、お越しください。

ウィズセンターはこんなところ

開館時間　火～土曜日／9：30～20：00
日　曜　日／9：30～17：00

休館日　月曜日・祝日・年末年始

情報提供
- 図書・DVD・ビデオの貸出
- 人材情報・各種団体の活動情報の提供
- 男女共同参画に関する資料の閲覧

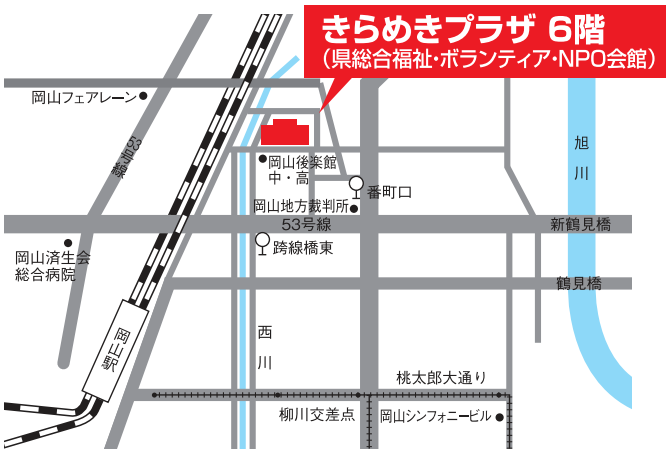
各種講座
- 男女共同参画に関する各種講座の開催

相　談
- 相談員による一般相談
  火～土曜日（祝日を除く）9：30～17：00
  （受付は16：30まで）
- 特別相談（予約制）
  弁護士による法律相談　原則第2・4金曜日
  医師によるこころの相談　原則第1・3金曜日
- 相談専用電話　☎086-235-3310
- 男性相談員による男性のための電話相談
  原則第2金曜日　17：00～20：00
  男性相談専用電話　☎086-221-1270

就業支援
- 就業に役立つ講座の実施
- 就業に関する情報の提供

交　流
- 各種団体へ活動・交流の場と機会を提供

広　報
- 情報誌の発行
- メールマガジンの配信（毎月）



ウィズセンターへお越しの際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

男女共同参画に関する投稿（100字以内）をお待ちしています。
お名前とご連絡先電話番号を明記の上、郵送、FAX、またはe-mailで、下記宛先までお送りください。

ウィズ61号
2012年9月発行

編集・発行／岡山県男女共同参画推進センター（ウィズセンター）
〒700-0807 岡山市北区南方2丁目13-1
きらめきプラザ（県総合福祉・ボランティア・NPO会館）6階
TEL（086）235-3307（代）　FAX（086）235-3306
Eメール：danjo@pref.okayama.lg.jp

ホームページ
http://www.pref.okayama.jp/
岡山県トップページ
▷組織で探す ▷県民生活部 ▷男女共同参画推進センター（ウィズセンター）

岡山県男女共同参画推進センターのホームページはこちら　https://www.pref.okayama.jp/soshiki/187/

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています